

平成 26 年度

教科の検査

①

国 語

注 意

- 1 問題用紙と別に解答用紙が 1 枚あります。
- 2 問題用紙および解答用紙の所定の欄に受検番号を書きなさい。
- 3 問題用紙は表紙を除いて 5 ページで、問題は□一から□三まであります。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された欄に書きなさい。

受 検 番 号

受 検 番 号

□ 次の(一)～(三)の問いに答えなさい。

(一) 次の1～4の文の――線部の漢字の読みがなを、それぞれ書け。

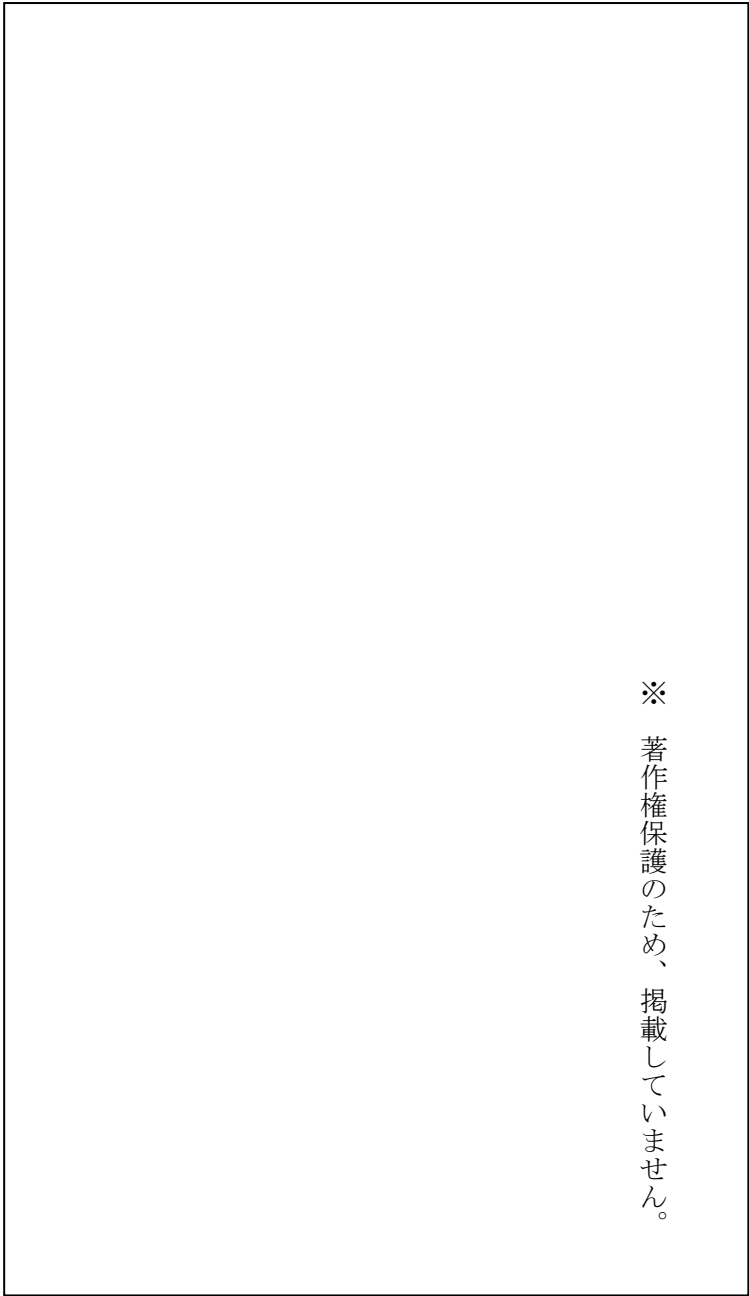
- 1 会議が円滑に運ぶ。
- 2 企業の責任を追究する。
- 3 提案を許諾する。
- 4 期待に胸が膨らむ。

(二) 次の1～4の文の――線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書け。

- 1 将来へのテンボウをもつ。
- 2 政治の制度をカイカクする。
- 3 世界的なキボで活動する。
- 4 夕日が空をソめる。

(三) 次の文章を読み、後の1～3の問いに答えよ。

※ 著作権保護のため、掲載していません。



1 文章中の「三人よれば文殊の□□」がことわざになるように、□□に当てはまる言葉として適切なものを、文章中から漢字二字でそのまま抜き出して書け。

2 文章中の――線部に「名案、アイデアはそれに比例しない」とあるが、これはどういうことか。このことを、次のようにわかりやすく言い換えるとき、□□に当てはまる適切な内容を、文章中の「集合思考」という言葉を必ず使って、八字以上十二字以内で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

名案やアイデアは、□□の増加につれて、多彩になるわけではない

3 文章中の――線部ア～エの「に」のうち、助詞でないものを一つ選び、その記号を書け。

□ 次の文章を読み、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

唐の太宗、即位の後、古殿にすみ給へり。破損せる間、湿気あがり、風露すさまじうして、玉体侵されつべし。群臣造作すべき由を奏しければ、太宗のいはく、「時、農節なり。民、さだめて愁へあるべし。秋を待ちて造るべし。湿気に侵されば、地に受けられず、風雨に侵されば、天にかなはざるなり。天地に背かば、身あるべからず。□を煩はさずんば、おのづから、天地にかなふべし。天地にかなはば、身を侵すべからず」といひて、終に宮を作らず、古殿にすみ給へり。

『正法眼蔵随聞記』による)

(注) 唐の太宗…中国の皇帝の名。 玉体…皇帝のお体。

造作…建築すること。 農節…農作業が忙しい時期。

湿気に侵されば、地に受けられず、風雨に侵されば、天にかなはざるなり…湿気にそこなわれて病気になるのは、地に受け入れられないからであり、風雨にそこなわれて病気になるのは、天の心に合致しないからだ。

宮…宮殿。

(一) 文章中の——線部の「すさまじう」を現代仮名遣いに直して、——線部全部をひらがなで書け。

(二) 文章中の□に当てはまる言葉として適切なものを、太宗の言葉の中から漢字一字でそのまま抜き出して書け。

(三) この文章で述べられている内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 唐の太宗皇帝は、古くなった宮殿を取り壊している間に天候が悪化し、農作業が忙しい時期になったために新築することができなくて、病気になるってしまった。

イ 唐の太宗皇帝は、古くなった宮殿を新築するように多くの臣下に勧められたが、農作業が忙しい時期であることに配慮して建築を認めず、古い宮殿に住み続けた。

ウ 唐の太宗皇帝は、古くなった宮殿が破損して病気になるため、多くの臣下に治療の方法を尋ねると、天地の心に合致しなくては病気は治らないと教えられた。

エ 唐の太宗皇帝は、古くなった宮殿が天地の心に合致しないありさまであったので、秋までに新築するべきだと命令したが、体調をくずしてついに完成しなかった。

☐

次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

※ 著作権保護のため、掲載していません。

(一) 文章中の――線部 1 に「学ぶことの楽しさ」とあるが、筆者はこれをどのようなものだと考えているか。このことを、次のような一文で説明するとき、 にとっては何まる言葉として適切なものを、文章中から漢字二字でそのまま抜き出して書け。

自分の に対して研究を続け、納得のいく答えを見つけて、知的な満足を得るといふところにあるもの。

(二) 文章中の——線部2に「そういう意味でも学問はやっぱりに役に立つんです」とあるが、筆者がここで述べているのはどのようなことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 学問は、人間の好奇心に応える以上に、自分が関心をもっていることを学び続けることで多くの出会いをもたらしたり、多くの便利なものを生み出したたりすることにおいて、人間に役立つものだと言えるということ。

イ 学問は、人間の好奇心に応える以上に、自然界にひそむ多種多様な謎なぞを解き明かすことで、昔のように天に祈るのではなく、人間の手で自然を支配することを可能にするということにおいて、人間に役立つものだと言えるということ。

ウ 学問は、人間の好奇心に応える過程の中で、人間のさまざまな感情に働きかけて、人間が恐ろしいと思うものや逃れたいと思うものから、人間を解放する力をもつということにおいて、人間に役立つものだと言えるということ。

エ 学問は、人間の好奇心に応える過程の中で、実際に人間にとって有益なものの発明に結びついたり、未知のことを解明することで人間の不安を解消したりすることにおいて、人間に役立つものだと言えるということ。

(三) 文章中の——線部3に「生命科学などという言葉はあまり安易に使わない方がいい」とあるが、筆者はなぜこのように考えているか。その理由を次のような一文にまとめるとき、
「・に当てはまる部分を、文章中からは八字で、は六字で、それぞれそのまま抜き出して書け。」

「学問」とは

を研究の対象とするものであるのに対して、「生命」は

であるから。

(四) 文章中の A D に当てはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- | | | | | |
|---|------|------|------|------|
| ア | A—学問 | B—工学 | C—学問 | D—工学 |
| イ | A—学問 | B—学問 | C—工学 | D—工学 |
| ウ | A—工学 | B—学問 | C—工学 | D—学問 |
| エ | A—工学 | B—工学 | C—学問 | D—学問 |